

令和5年度 ミュージアムを活用した子どもの感性育成事業

目的

- ・本物の芸術と向き合いながら充実した鑑賞活動を行うことを通して、児童の豊かな感性を育む機会を創出する。
- ・図画工作の鑑賞領域における教員の更なる指導力向上に資する。

I 県立美術館での鑑賞活動の様子

令和5年度は、4年生と特別支援学級の児童を中心に、県内13市町の23校を県立美術館に招待し、鑑賞活動を実施しました。

児童は、自分なりの見方や感じ方で作品を鑑賞し、同じ班の児童と感想を自由に伝え合いました。また、振り返りの中で「心に残った作品と心に残った理由」について発表する場をもち、美術館を楽しむなかで感じたことを伝え合い交流しました。その活動の様子を紹介します。

Step 1

美術館に着いたら、ガイドスタッフとのご対面。はじめの会で鑑賞のめあてと美術館での三つの約束を確認しました。

【めあて】美術館を楽しもう！

〔楽しむためのステキなヒント〕

- ① いろんな見方を試そう。
- ② 自分なりの感じ方を大切にしよう。
- ③ 作品から感じたことを友だちと伝え合おう。

〔美術館での三つの約束〕

- ① 作品にさわらない
- ② 走らない
- ③ 大声を出さない



Step 2

展示室では5人以内の班でガイドスタッフと一緒に作品鑑賞をしました。

座って見上げて「あれ？」、手で枠をつくってのぞいて「あっ！」、作品のまねをしてみても「むふふ」など、いろんな声が聞こえてきました。また、感じたことを班で自由に話し、見方や感じ方の違いを楽しみました。



Step 3

展示室から帰ってきて、まずは同じ班のみんなと振り返り。「あの作品が気に入った！」「私はあの作品！」おうちの人に素敵なお土産話ができたかな？

みんなの前でお土産話をお披露目し、「そうそう」「そうだった！」「こんな感じ」身振り手振りで教えてくれる姿がとても素敵でした。

楽しい時間はあっという間でした。帰るときにはガイドさんとタッチ。また来てね！



鑑賞活動の様子



ガラスに映してみる



お話ししてみる



空も作品の一部



かくしてみる



下から見上げてみる



ポーズをとってみる



作品に入りこんでみる



さわってみる



美術館のシンボルマークと



角度をかえてみる

II 美術館での鑑賞後の授業実践の報告

小学校学習指導要領（平成29年告示） 図画工作科の「指導計画の作成と内容の取扱い」では、「題材など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、造形的な見方・考え方を働かせ、表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させた学習が充実するようにすること」と示されています。また、鑑賞の指導に当たっては、「地域の美術館などを利用したり、連携を図ったりすること」が示されています。

各学校では、美術館で体験した「自分なりの見方や感じ方をもつ」こと、「感じたことを友だちと交流し、感じ方の違いを楽しむ」ことを図画工作の授業でも取り入れ、表現力を高める指導の工夫が求められます。

今年度の参加校も、美術館での鑑賞の活動を受けて、学校で図画工作科等の授業実践に取り組み、児童の豊かな感性の育成を目指しました。参加した学校の実践を紹介します。

【実践報告】

水彩
版画

水彩画と版画の表現を比較した実践

臼杵市立下北小学校

水彩
フレスコ

地域資源を活かして地域と関わる実践

臼杵市立佐志生小学校

鑑賞

美術館での活動を生かした制作と相互鑑賞の実践

津久見市立青江小学校

鑑賞

対話により見方や考え方を広げる実践

宇佐市立八幡小学校

鑑賞

アートカードを活用した実践

別府市立春木川小学校

国語

教科を横断した実践

大分市立小佐井小学校

【事後実践】 違ったやり方で表現してみよう

OPAMで作品の鑑賞をする中で、特に画材の違いや様々な表現方法があることに興味を持ちました。そこで、水彩画で描いた花火を違う表現方法である版画でも表してみることにしました。できた作品を鑑賞する中で、それぞれの表現方法には違った良さがあることに気づきました。



水彩は心がワクワクする感じで、版画は心が落ち着く感じ。

版画は、全体が暗いので花火の光に目がいく。

水彩は大きい音が出ている感じ。版画はパチパチ音がしている感じ。



木版画

水彩画



同じ題材を、違う表現方法で制作し比較しています。異なる表現方法の作品を制作することで、共通することや違いを感じ取ることができています。よさや面白さなどを感じ取ったり味わったりして自分の見方や感じ方を広げることにつながる実践です。

【事後実践】 地域の良さをフレスコ画でつなげよう！

地元黒島の岩石を採取し「砕く・擦る・濾す」工程を経て、世界で一つの絵の具をつくり、「ふるさと佐志生」をテーマに、フレスコ画の下描きを行いました。県内企業に協力をいただき、フレスコ画について学び、パネルに下地作りをした後、自作の顔料も使用したフレスコ画を仕上げ、友だち同士で鑑賞しました。また、振り返りを「はがき新聞」にまとめ、完成した作品は佐志生駅に寄贈しました。



世界で一つの絵の具づくり



漆喰をパネルに載せ準備。友だちとともにフレスコ画に挑戦



下書き



フレスコ画

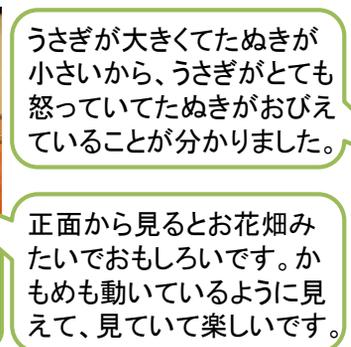


図画工作を中心に総合的な学習の時間・国語等の学習と関連を図り、地域資源を活かした作品をつくっています。多くの人と関わりながら、最後に完成した作品を駅に寄贈し飾ってもらうことで、地域の魅力を発信する事にもつながった実践です。



【事後実践】本から飛び出した物語

美術館で様々な作品を見たことから、立体作品作りにも意欲的に取り組むことができました。鑑賞の時には、美術館で学んだ「見方を変える」「いろいろな場所から見てみる」「想像する」ことを使って、友だちの作品を上からのぞいたり、下から見上げたり、積極的に体を動かして鑑賞する姿がありました。作品を作った友だちに、「これはどんな場面？」「どんなお話？」や「工夫したところは？」など質問をして、鑑賞を楽しむことができていました。



後ろにちゃんと跳んでいるように見せるために線をかいていて、細かくていいと思いました。

うさぎが大きくてたぬきが小さいから、うさぎがとても怒っているたぬきがおびえていることが分かりました。

正面から見るとお花畑みたいでおもしろいです。かめも動いているように見えて、見ていて楽しいです。



物語のなかで、心に残った場面を立体作品で表現しています。粘土での表現に台紙を組み合わせることで、浮遊している様子を表したり、見る人の視点を考えながら組み立てたりして、表現の幅が広がっています。鑑賞時には、作者の思いを感じ取りながら味わうことができます。

対話により見方や考え方を広げる実践

宇佐市立八幡小学校

【事後実践】いろいろな見方で鑑賞しよう

近くで見たり、離れて見たり、下から見たりして、様々な見方で鑑賞をしました。グループで考えを交流することにより、新たな気づき生まれ、見方を広げていました。作品のポーズをまねしたり、その作品の続きはどうなるのかを考えたりして、意欲的に鑑賞しようとする児童が増えました。



作品の人と同じポーズをしてみよう。どんな気持ちなのかな？

作品に触ってみたい。どうやって描いたのかな？でこぼこしている。

近くで見よう。少し離れて見よう。座って下から見よう。見方が変わるかな？



グループで話しながら鑑賞しています。お互いの作品を見合うときに、ストーリーを想像したり、自分なりの見方をしたりして楽しんで作品を味わっている様子が伝わります。美術館での経験を活かして、作品を見る視点が増え、見方・考え方が広がっていることが伝わる実践です。



【事後実践】 どんな音が聞こえる？

どんな音が聞こえてきそうかを想像して作品を当てるクイズに取り組みました。音を聞いてどの作品かを考える中で、それぞれのカードから聞こえそうな音について友だちと話し合い、感じたことを共有したり、違いを知ったりして、作品を楽しむことができました。お気に入りの作品も見つかったようです。



自分はそうは思っていない音でも、聞いたらピッタリで「いい音だな」と思いました。

きれいな音がしそうな作品がありました。



みんなの音を聞いてびっくりしました。「へー」と思ったのもあって、わけを聞くとわかった気がしました。



アートカードを活用した鑑賞活動です。「どんな音が聞こえるか」という視点を持って見ることで、形や色などに注目し様々な見方をする事ができています。他者の見方を感じ取りながらやりとりする中で、カードに描かれているものを何かに見立てたり、比較したりしながら作品を見ています。美術館での経験が造形的な視点の広がりにつながっていることがわかる実践です。

教科を横断した実践

大分市立小佐井小学校

【事後実践】 見学したことを新聞にまとめよう

O P A Mのミュージアムツアーでの作品鑑賞や美術館全体の見学を通して、興味を持った芸術作品のことや美術館の造りや仕組みのことについて、国語科の「新聞を作ろう」の単元と関連付けて新聞を書きました。



たまごに、デザインされた虫や花たくさん描いていて、探るのがとても楽しかったです。友だちと一緒に探るのが楽しかったです。

角度を変えて見ても、絵に描いてある人と目が合う絵があることを知って、見にいきたいと思いました。

何が心に残っているのか、ランキング形式でとてもわかりやすかったです。



新聞には、展示室内の作品のことに加えて、施設全体で発見したことや、作品の見え方の変化などがまとめられています。美術館で経験したことが、相手や目的を意識してまとめられており、図画工作と国語の学習を計画的に関連させた実践です。



鑑賞活動後の児童の感想

心に残った作品はどんな作品でしたか。

竹工芸でみた、大きな扇風機のような作品をみていたら、本当に吹き飛ばされそうな気がしたのでおもしろいなと思いました。
(別府市立春木川小学校)

タブレットだけではわからない絵の具の浮いている感じや細かい色が実物でみられてよかったです。
(日田市立日隈小学校)

天庭のガラスの作品がとてもきれいだった。雨が降っているときにまた見に来たいと思いました。
(宇佐市立四日市北小学校)

由布の里道は描かれている小さな人が大きな印象を引き出していました。そこを手で隠してみると心なしかさみしく感じました。

(由布市立由布川小学校)



ブランコが心に残りました。空中に浮いているのか、人が2人いるのかわからなくなって不思議でした。

(臼杵市立臼杵小学校)



「やまところ」が心に残りました。わたしだったら、むらさき色を加えたいと思いました。

(日出町立川崎小学校)



引率の先生の感想

子どもが、様々な角度から見たり、近づいて見たりしていました。触ってはいけないことはわかっているけど、つい触りたくなるほど何かを感じていたようでした。

日頃の学校ではできない鑑賞ができて、「うわー」「すごい」など自然と子どもから歓声が上がっていました。

一人で見ると素通りしてしまいそうな所も、みんなで作品の事を話しながらツアーを楽しむ事ができておりとても良かったです。

想像するのが苦手と言っていた児童が、ガイドの先生のお話や友だちの話を聞いたりして、色々な見方を想像して話すことができていました。

令和5年度ミュージアムを活用した美術教育実践事業 参加校一覧

月	日	曜	AM 10~12 PM 13~15	市町村名	学校名
9	11	月	AM	日出町	川崎小学校
			PM	杵築市	山香小学校
9	12	火	AM	大分市	小佐井小学校
10	3	火	AM	中津市	今津小学校
10	6	金	PM	臼杵市	佐志生小学校
10	10	火	AM	佐伯市	明治小学校
10	16	月	AM	宇佐市	八幡小学校
			AM	由布市	由布川小学校
10	19	木	AM	別府市	鶴見小学校
			PM	別府市	春木川小学校
10	30	月	PM	竹田市	竹田小学校
			PM	竹田市	城原小学校
10	31	火	AM	宇佐市	四日市南小学校
			AM	臼杵市	下南小学校
11	2	木	AM	津久見市	青江小学校
11	20	月	AM	宇佐市	四日市北小学校
11	21	火	AM	臼杵市	臼杵小学校
11	24	金	AM	日田市	日隈小学校
12	18	月	AM	大分市	こうざき小学校
			AM	大分市	佐賀関小学校
1	18	木	AM	津久見市	津久見小学校
1	19	金	AM	豊後高田市	草地小学校
1	26	金	AM	臼杵市	下北小学校
2	1	木	AM	由布市	由布川小学校